

団体名:大門 DIVE! 実行委員会

活動名:よそ者目線で大門の昔と今をつなげる橋渡し!

日時:令和3年 8月11日(水) 19時00分 ~ 21時00分

場所:アカデミックケアホーム太閤(中村区)

◆◆団体の紹介◆◆

中村区大門地区の外の地域に住むメンバーが、よそ者の視点で大門の魅力を発信する。イベントを開催し大門地区のファンを増やすとともに、新たに大門の住民となった層が地域活動に参加しやすい環境を作り、新旧住民をつなげることを目的とした活動。

◆◆活動の様子◆◆

会場のアカデミックケアホームは、大門地域の交流センターとしてまちの人に開放している施設で、入りやすい雰囲気。大門商店街の方々の初め十数人が会場に、そのほか、ZOOMからは市内の様々な地域でまちづくりに関わっている方が二十数人と、コロナ禍に配慮した形で開催されました。

講師の高野先生は、豊田の農山間部を主なフィールドに、若者の移住支援・地域再生のサポートや「小さななりわい作り」をする支援にも携わって見えるとのことでした。

まず、『過疎化が問題となって久しい中でも、若い人が移住し、人口がV字回復している地域がある、20~40代の世代が、自然豊かな環境での子育てや、地域と繋がりを感じられる生き方を求めて移住が起きている』、というお話がありました。そして、『移住を呼び込むには仕組みも大事で、「空家バンク」等の取組や、行政等も入った「移住委員会」で、移住後のこと（町内会や消防団に参加する必要がある等）を前もって説明し、顔合わせも兼ねておくことで、移住後にスムーズに馴染んでいける』という例等を紹介されました。



その後の座談会では、参加者からの質問に答え、「どんな地域で移住が起きているか」というと、ゲストハウスやカフェを併設した本屋等、村に滞在できる場所があることを挙げられ、この点、街中の地域でもファンを増やすためには同じことが言えると感じました。

また、空き家を活用できないよくある理由として「修理にお金がかかる」「荷物を片付けられない」その他6つの理由を挙げられましたが、座談会では、商店街のメンバーから、「まさに空き店舗を活用できない理由と同じ」との共感も寄せられました。



主に山間部の例を中心に話されましたが、どう地域を盛り立てていくか、住みたい人を増やすか、まちづくりのエッセンスが詰まったお話で、参加者全員にとって良い学びになりました。実際の活動も大切ですが、このような学びを核に据えて、進む方向を共有することは、まちづくり活動をする団体にとって大切な機会だと感じました。今後の活動にも期待します。